The International Center Newsletter



TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部 国際センター ニュースレター

Vol. 30 Summer, 2018







上) ミシシッピ大学の友人と(本人左) 下)静宜大学のクラスメートたちと(本人右)



目次	
Hello from a Graduate!	1-2
Let's Try Overseas Volunteer Work!	2-3
Hello from Belgium!	3-4
CET Academic Programs 夏学期スタート	4
新規提携大学紹介 実践大学(台北市)	4

1. Hello from a Graduate!

今号では在学時代に交換留学に行ったことをきっかけに、卒業後台湾の提携大学の大学院に進学をした松宮知輝さんを紹介します。入学当初は留学を全く考えていなかった松宮さんですが、ある教授との出会いにより一歩を踏み出し、それがその後の彼の人生を大きく変えました。小さな一歩はその後の大きな一歩へとつながることを教えてくれます。

松宮 知輝(2014年経営学部ホスピタリティ

🌉 経営学科卒業)

自分の価値観や人生観を変える経験をする には留学が一番の近道

さん、こんにちは。2014年度卒業生の 松宮知輝です。私は在学中にアメリカ のミシシッピ大学へ交換留学、卒業後 に台湾の静宜大学大学院へ進学し、今年の4月 に大学院を卒業しました。今回は自分の留学体 験についてみなさんにお伝えしたいと思います。

まずアメリカでの交換留学ですが、私は大学3年 次生のときに約10か月間、ミシシッピ大学で英語 の勉強をしました。それまで1度も海外に行ったこ とがなかったので、アメリカに着いた時に感じた高 揚感は今でも鮮明に覚えています。アメリカでの 生活はとても刺激的でした。しかし、当時の私の 英語力はとても低く、何度も壁にぶつかり、落ち込 むこともありました。それでも留学生活を楽しく過 ごせたのは周りの人たちの助けがあったからで す。祝日や冬休みに現地の友達が実家に泊めて くれたり、色々な場所に連れて行ってくれたりしま した。また、ミシシッピのオックスフォードはかなり の田舎町で、移動手段も限られていたので、買い 物をするだけでもなかなか大変でした。現地の学 生はほとんどが自分の車を持っているので、彼ら が買い物をするときに「一緒にくる?」と誘ってもら うことも多く本当に助かりました。

授業以外のプライベートな時間は積極的に現地の学生と交流して英語力を伸ばす努力をしました。特に私はスポーツが好きなので、大学内のクラブ活動(テニス部、バトミントン部、フェンシング

部)に参加しました。どのクラブも参加している日本人は私だけだったので、英語力を向上させるには最高の機会だったと思います。留学しても毎日同じメンバーや日本人と一緒に行動を共にするのはもったいないです。他の日本人とまったく関わりを持たずに一匹狼になる必要はありませんが、たまには1人で行動するのも新しい経験や語学のためにいいかもしれません。留学は様々なことについての知識を深め、新しい経験に積極的にチャレンジできる絶好の機会です。

大阪学院大学を卒業した私は、ビジネスを勉強をするため台湾の大学院に進学しました。台湾での大学院生活はアメリカ留学と同じくらい刺激的で貴重な経験でした。台湾に着いた当初は知り合いが1人もおらず、まったく土地勘のない場所だったので、本当にゼロからのスタートでした。しかし、最終的には現地で国際色豊かな友人がたくさんできました。

留学中はもちろん楽しいこともありましたが、それと同じぐらい、もしくはそれ以上に苦しい経験もしました。特に1学期目はかなり苦労しました。大学院の授業はディベートやグループワークが多く、自分から積極的に発言をしないと出席と見做さない教授もいました。また、自分以外は全員が欧米からきた学生だった授業もあり、特にその授業は大変でした。欧米の学生たちはとにかく積極的でディベートで熱くなると、私には落ち着いて考

Vol. 30 Page 2



えてから話すチャンスすらありませんでした。最 初はそのような授業になかなかなじめず、途中 でドロップアウトしようか悩んだこともありました が、嫌なことから逃げたくはなかったですし、こ の経験をプラスに変えようと前向きに考えるよ うにしました。とにかく何かしらの結果を残そう と必死に頑張りました。後々気づいたことです が、フランス、イタリアやスペインなどの英語が 母国語ではない国の学生たちの英語はよく聞 いてみると文法的に間違っていたり、発音がお かしいこともありました。ただアジア圏の学生と 決定的に違う点は彼らはとにかく自信を持って よくしゃべることです。私はそれまで話す前に文 法や発音がおかしくないか必要以上に気にし すぎてしまうことが多く、自信を持たずに話して いたので、相手に言いたいことが伝わらないこ とがよくありました。しかし、彼らの話す姿を見 て、間違ってもいいからとにかくたくさんしゃべ ろうと思うように努力すると、次第にそうできる ようになりました。

そして、大学院で一番苦労したのが修士論文 でした。論文についてここで詳しくは書きません が、大学院生活の後半はほぼ毎日朝から晩ま

で図書館にこもって論文を書きました。論文 の指導教授と何度も話し合って、時には意見 がぶつかることもありました。予定より若干時 間がかかりましたが、なんとか書き上げること ができ、Oral Defense (口頭試問)も無事に合 格できました。

最後に、私が留学をするという決断ができ たのは大阪学院大学で出会った多くの方々 に背中を押してもらえたからです。大学1年次 生の時はやりたいことも目標も特になく、毎日 をだらだらと過ごしていました。しかし、ゼミ ナールの担当のマイク・マツノ先生(元大阪学 院大学経営学部准教授)との出会いにより私 の人生が180度変わりました。マイク先生は いつも留学の魅力や重要性について熱く語っ てくれました。在学中にアメリカに留学するこ とができたのもマイク先生のおかげです。もし アメリカに留学していなかったら台湾の大学 院に進学するという選択肢はなかったでしょう し、様々な国の人たちと知り合うこともなかっ たと思います。マイク先生と出会えたことに本 当に感謝しています。マイク先生だけではなく グレッグ・ナカジョウ先生(元大阪学院大学経 営学部講師)や経営学部の後藤登先生、国 際センターのスタッフ、留学経験のある先輩 たちや同じ志を持った同級生たちと出会えた ことにも感謝しています。留学をしなくても大 学生活を有意義に過ごすことはできるかもし れませんが、自分の価値観や人生観を変え る経験をするには留学が一番の近道ではな いかと思います。私自身、留学をして本当に 良かったと胸を張って言えます。英語力が伸 びたおかげで、世界中に友達ができ、自分の 内面も変えることもできました。留学に興味が ある方はぜひチャレンジしてください!そして 今、留学中の皆さんは後悔の残らないように チャレンジ精神を持って存分に楽しんでくださ



人生で一番影響を受けたマイク・マ ツノ先生(静宜大学にて)

2. Let's Try Overseas Volunteer Work!

海外でのボランティア活動に興味のある学生は少なくないと思います。しかし、実際に現地に足を運ぶ学生は多くはないのではないで しょうか。今号では、アメリカの交換留学から帰国後に参加したカンボジアの孤児院でのボランティア活動を通して、色々な気付きを得た 谷脇愛弓さんを紹介します。将来は海外で日本語教師をするという夢に向けて、この秋からフランスへ2度目の交換留学に行くことが決定し ています。これからさらに世界が広がっていくことでしょう。

■谷脇 愛弓(外国語学部4年次生) カンボジア・ボランティア

学3年目が始まる時に、就職活動が 始まる前にたくさんのことに挑戦しよ うと思い、やりたいことリストの1つに 上がったのがボランティアでした。また、その頃 アルバイト先の上司に「谷脇は一般の企業に 就職するより、NPOのような団体に入って、東 南アジアなどで人のために何かするほうが向い てそうだな」と言われ、「そうか、じゃあ東南アジ アにボランティアをしに行こう」と思いました。カ ンボジアの孤児院へボランティアに行った先輩 のFacebookの投稿を思い出し、その先輩から 孤児院のオーナーの連絡先を教えてもらい、夏 休みを利用してカンボジアに旅立ちました。

現地ではカンボジアのシエムリアップにある 孤児院で1週間ほど滞在し、そこで孤児院のお 手伝いをしました。そこには30人ほどの孤児が 暮らしていて、私は毎日子供たちと遊んだり、 一緒に勉強したりしました。そこに暮らす子供 たちは、日本語と英語を毎日朝の5時から勉強





しているため、ほとんどの子供たちが2カ国語を 上手に話していたので、言葉の壁を感じること はあまりありませんでした。子供達はそれぞれ が役割を持っていて、一緒に遊んだり、勉強し たりしていても、自分の役割の仕事の時間にな ると、何も文句を言わず働き、みんなで協力し あって生活をしていました。

日本で暮らす私たちの日常は物が溢れてい ます。しかし、カンボジアでは、日本に比べて物 が少なく、ましてや孤児院の中では、さらに少な



ちと(本人左から3 人目) 右)いつも明るい孤児 院の子どもたち (本人中央)

左)孤児院の子どもた

い物で生活をしていました。そのため、彼らの 生活の中にはたくさんの暮らしの工夫や術が 溢れています。例えば、子供たちとファッション ショーの動画を見ていた時、子供たちが「私た ちもファッションショーをしたい!」と言い出し、 大きなシーツを3枚持ってきて、木を結んでいた 紐とお花で、何種類ものドレスをデザインし、 ファッションショーを始めました。子供たちは、見 様見真似でモデルのようにポーズをとって本当 に楽しそうでした。このように物がなくても自分

Page 3 Vol. 30



で考えることで生活は豊かになることを子供たちに教えられました。

本当に元気で、明るく、勉強熱心な子供たちでしたが、私が滞在中にとても気にかかったのは子供たちの食生活です。私は1週間子供たちと一緒に3食同じ物を食べました。食事の栄養は本当に偏っていて、ひどい時には朝ごはんが白米と薄く焼いた卵1枚と茹で卵1つ、昼には白米と薄く焼いた卵のみでした。日によっては、野菜やたんぱく質が明らかに不足しているメニューもありました。敷地内で野菜や魚が育てられていますが、30人以上で分けるには少

なすぎる量でした。食事に出てきた野菜は、正 直言って野菜というより草に近かったです。

また、滞在中にオーナーが孤児院から1時間ほど離れた場所に連れて行ってくれました。そこは本当に何もない土地でしたが、その土地でオーナーと孤児院の子供たち、村の大人が数人で一から田んぼを作っていました。オーナーは「あなたたちのようなボランティアの人がいないと、国の援助もほとんどないので、食べていくことが大変難しい。勉強ももちろん大切だが、何より子供たちにとって食事はとても大切だ。食事ができなければ、子供たちは勉強すること

もできない」と言っていました。

私の滞在は1週間という短い期間だったため、孤児院での生活のほんの一部しか見ることができなかったと思います。しかし、私のようなボランティアがもっと必要なことは十分分かりました。今後はこの経験を伝える機会を学内で作り、現状を知ってもらい、この孤児院のボランティアに参加してくれる学生を増やしたいと考えています。そして、遠くない将来、孤児院の子供たちが日本に来て、ボランティアをした学生のサポートを受けながら、大阪学院大学で学習できるような機会を作ることができたらと考えています。

3. Hello from Belgium!

海外で暮らしたい、海外で仕事がしたい。そんな夢を持っている学生はたくさんいます。しかし、実際に外国人として海外で暮らすことは容易なことではありません。特に欧米諸国でアジア人として暮らすのは、並大抵の努力では乗り越えられない壁があります。今号では、以前大阪学院大学国際センターの職員として勤務し、現在はベルギーで子育てをしながら仕事をしている平岡佐友里さんの手記を掲載します。

■平岡 佐友里

自分の人生を切り開いていけるのは自分だけ

略歴

2010年 関西学院大学 文学部文学言語学科卒業

2010年~2013年 大阪学院大学勤務(国際センター勤務は2011年4月~2013年8月)

2015年 ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー) 大学院卒業 (Educational Studiesで修士号取得)

2016年~2017年 Vigeo Eiris (ESG Research Analystとして企業のCSR活動を分析)

2017年~現在 Bureau Van Dijk – A Moody's Analytics Company (Business Analystとして企業情報を分析)

さん、こんにちは。私は今ヨーロッパ のベルギーに住んでいます。今回 は、私の今までの経験を基に、グローバル化が進む世界で生き抜くためのヒント を皆さんにシェアしたいと思います。

【ボーダレス化が進むヨーロッパ】

ベルギーは九州より小さな国ですが、EU(欧州連合)の主要機関が集まっていることから「EUの首都」と呼ばれており、国際都市として知られています。特にベルギーの首都であるブリュッセルは、居住者の55%以上がベルギー国外で生まれており、30%以上が外国籍を持っています¹⁾。公用語はフランス語・オランダ語・ドイツ語で、ベルギー国内であっても言語圏によって文化や特色に違いがあります。このような背景から、ベルギーでは多くの人が2言語以上を話します。

EU(欧州連合)が設立されてから人・モノの移動が自由になり、ヨーロッパでは母国以外の国で学ぶ・働くということが当たり前の選択肢になっています。私も現地企業に勤めていますが、同僚の約半数がベルギー以外の国籍を持っています。

皆さん、「Globalization(グローバル化)」という言葉をよく耳にすると思います。グローバル化とは、政治・経済・文化などが国境を超えて地球規模で拡大することを言い、まさしく今のヨーロッパの現状を表しています。グローバル化の個人レベルでのメリットは、国境に関係なく進路や就職先を選ぶことが容易になり、選択肢が増えることです。逆にデメリットとしては、国境を越えて人が移動するので、競争相手が増えるということです。例えば、条件のよい仕事には国境を越えて多国籍の人が応募してくるので、その人たちに勝つためのスキルが必要になります。

ここまで読んでみて、ヨーロッパに住んでいる 人たちは特殊な環境で生活しているのだと他 人事のように感じていませんか?けれど、決し てこれは他人事ではありません。グローバル化 の波は、着実に日本にも押し寄せています。

【日本に押し寄せるグローバル化 】

日本国外に住む日本人の数は年々増加しており、2016年10月1日現在では約134万人もの日本人が海外在住です。そのうち約65%が長期滞在者(3ヶ月以上の海外在留者で、一時的



に海外で暮らしている日本人)で、残りの約35%が永住者(永住権を認められており、生活の拠点を日本から海外へ移した日本人)です。また長期滞在者の約半数が、民間企業関係者やその家族です。日本企業の海外進出も年々増えており、2016年10月1日現在では、海外進出している日系企業の拠点は約7万箇所あります²⁾。この統計から分かるように、「海外で生活する・働く」ということは日本人にとっても身近なことになってきています。

また高齢化が進む日本では、2017年9月15日現在で総人口に占める高齢者(65歳以上)の割合は27.7%となっています。2065年には高齢者の割合は38.4%³⁾、つまり2.6人に1人が高齢者となると推計されています。高齢化が進む社会では労働人口を確保するのが難しく、日本も外国人を積極的に受け入れて、労働人口を確保する必要が出てきます⁴⁾。このように、日本国内でもゆっくりではありますが着実にグローバル化が進んでいます。

これらの理由から、グローバル化は日本人に とっても他人事ではなく、それに対応できるスキ ルを身につける必要があります。では、どう



やってそのスキルを身につけることが出来 るのか?それは、「失敗を恐れず何事にも チャレンジする」ということです。

【グローバル化が進む世界で生き 抜くために】

私の人生のターニングポイントは、大学4 年次生の時に行ったオーストラリアでの1 年間の留学でした。海外にいると予期せ ぬトラブルに遭遇します。私もオーストラリ アに着いてすぐ、空港に迎えに来てくれる はずの語学学校のスタッフが来ていない というトラブルに遭いました。実は私は小 さい頃から海外に興味があり、小学生の 卒業文集には「将来の夢は海外移住!」 とまで書いていたにも関わらず、留学に 行った時点では全く英語が話せませんで した。顔面蒼白になりながらも自分でなん とか語学学校に電話をかけてみると、到 着日を勘違いしていたらしく自力でホーム ステイ先まで行くようにと言われてしまい、 大パニックに。泣きそうになりながらも空港 のスタッフに事情を話しタクシーを手配し てもらい、なんとか自分でホームステイ先 まで行くことができました。今考えると、英 語が全く話せなかったにも関わらず、どう

にかトラブルを乗り越えた自分の勇気と行 動力にビックリします。

このように海外で暮らしていると、良くも 悪くも様々な経験をします。その経験を通 して、異文化理解の大切さや問題解決 カ、積極性や柔軟性などのスキルを身に つけることができます。グローバル化が進 む社会で、これらのスキルは必ず必要に なってきます。私は勇気を出して留学に 行ったからこそ、語学力はもちろんですが そのようなスキルも身につけることがで き、海外で大学院進学と就職をすることが できました。そして現在は、小学生の卒業 文集に書いた「海外移住」の夢を実現さ せ、国際都市ベルギーで様々な国籍の人 に囲まれながら生活しています。もし大学 生の時に勇気を振り絞って留学にチャレン ジしていなければ、夢は夢のままで終わっ ていたと思います。

自分の人生を切り開いていけるのは自 分だけです。自分を信じて失敗を恐れず に何事にもチャレンジしていけば、いつか 目指す場所に到達することができます。 「自分には無理」という思い込みを捨て、 勇気を持ってまず第一歩を踏み出してみ てください。





【ブログ】 https://ameblo.jp/sayuri0330/ 異文化コミュニケーションに焦点を当てたブ ログです。



- 1) Paul, McNally (2016, January 13) Brussels by numbers: Facts and figures for a truly international city. Retrieved from https://www.thebulletin.be/brussels-numbers-facts-and-figures-truly-international-city
- 2) 外務省 (2017) 海外在留邦人数調査統計. Retrieved from http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000260884.pdf
- ³⁾ 総務省 (2017) 統計トピックスNo.103: 統計からみた我が国の高齢者(65歳以上). Retrieved from http://www.stat.go.jp/data/ topics/pdf/topics103.pdf
- 4) 内閣府 (2017) 平成29年版高齡社会白書(全体版). Retrieved from http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/ zenbun/index.html

CET Academic Programs 夏学期スタート

CET Academic Programsがアメリカの大学に在学する学生向けに日本語プログラムを実 施しているのは、国内では大阪学院大学のみです。今年も6月5日に34名の留学生が来日

し、本学の在学生とキャンパスの近くのアパートやシェアハ ウスで共同生活をしながら、毎日日本語の集中講義を受け ています。今年はアメリカ国籍25名、中国国籍8名、モーリ シャス国籍1名の学生たちです。夏学期は2ヶ月間と短いで すが、梅雨の真っ只中の日本でこの蒸し暑さを乗り切り、 多くの経験を積んで帰国してほしいと思います。



新規提携大学紹介 実践大学

台北と言えば地上101階建てのその名も台北101、不夜城の士林夜市、小籠包で世界 的に有名な鼎泰豊(ディンタイフォン)。車で1時間も行けば、「千と千尋の神隠し

みのモデルになったと言われる九份(ジォウフェン)もありま す。大阪から飛行時間約3時間で到着し、LCCも飛んでいるた め、人気の旅行先となっています。その台北市にあるのが実 践大学 (Shih Chien University)で、本学とは今年4月に学術交 流協定を締結しました。前身は1958年に創立した実践家政専

科学校で、1997年に実践大学としてスタートしました。今 年で創立60年を迎えます。現在約15,000名の学生が学 んでいるキャンパスは、斬新なデザインで知られていま す。また、2017年には台湾の私立大学の中で4位にラン クし、特に建築やファッションの分野で有名です。今年の 夏期海外研修では実践大学のサマースクールに6名の



学生が参加予定です。また、交換留学は2019年春学期から開始の予定です。活気溢れ る台北市で留学生活を送ってみませんか?





学生の皆さん、国際センターのLine@に 登録をして最新情報をゲットしましょう!

★ホストファミリーとホームビジット ファミリーを随時募集しています。

興味をお持ちのファミリーは、詳細情報をお送りし ますので、inoffice@ogu.ac.jpまでご連絡ください。

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434(代表) FAX: 06-6381-8499 Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG"Taking Off"もご覧くださし http://inoffice.blog102.fc2.com/

